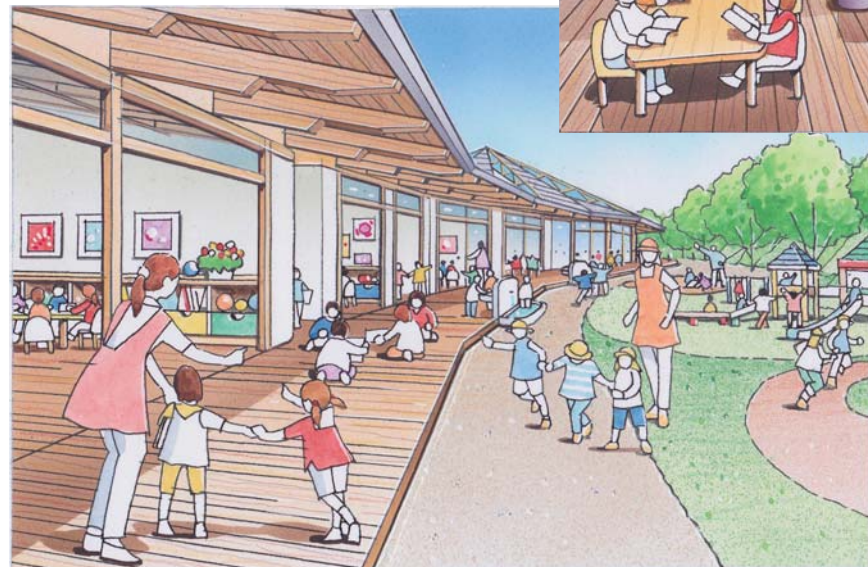
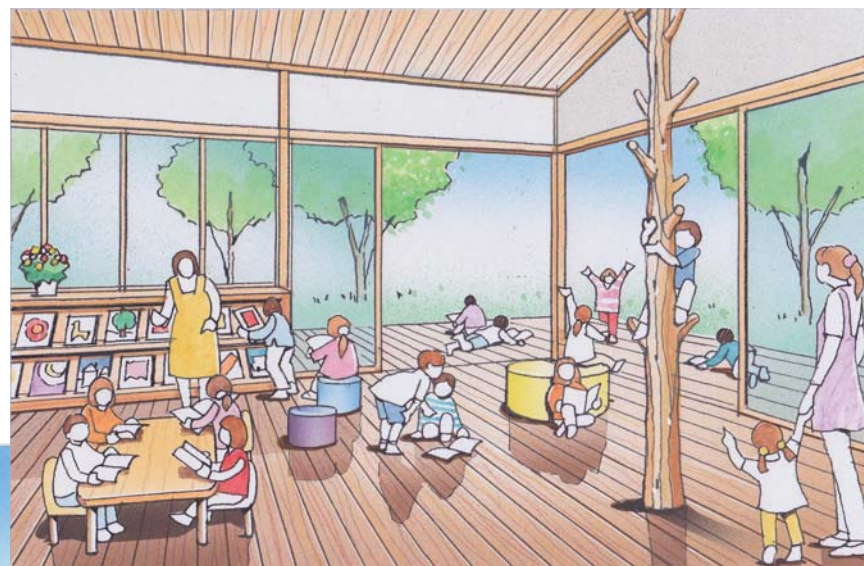




子どもたちの元気な声が聞こえてきそうな景観づくり

●まちなかのシンボルとなる保育所

- ・建物を分節させることで、漁村集落の家並みを想像させる趣となり、また、中土佐町の地場産材と技術を取り入れることにより、中土佐町らしい保育所の外観を醸し出すとともに、まちなかの地場産業である林業(絵)のアピールも兼ねます。
- ・周囲の起伏ある地形や緑豊かな森と調和する大きな屋根を特徴とし、景観に調和する木の園舎として、森の借景を効果的に利用しながら木造の特徴を活かしたまちなかのシンボルとなる外観デザインとします。



・屋内、半屋外、屋外の連続性と広がりある保育の場が展開されており、テラスに架かった大屋根と南向きの変化のある園庭は、園児たちの笑い声が響く開放的な空間となります。

●地元木材を活かした「木育」

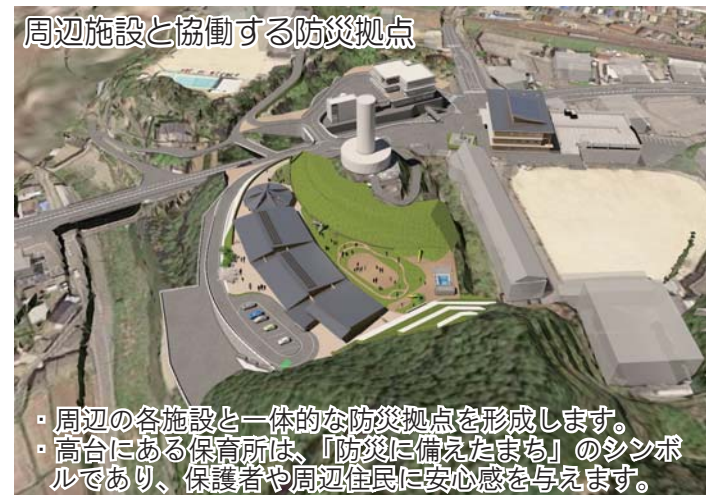
- ・地元木材を使用した図書スペースは、中土佐町の眺望を望む位置に配置されており、夏にはテラスで園児達が絵本を読みながら、景観を楽しむことができます。
- ・施設内は身体が直接ふれる部分は木を多様するなど、地元木材を活かした「木育」の場とします。
- ・園内は木登りの柱、近道、子どもサイズの図書コーナーなど、子ども達のスケールでつくった小さな隠れがのような空間を設け、園児がワクワクし、意欲的に楽しく活動できる仕掛けを設けた空間となっています。

自然を活かした「森育」



- ・城跡までの散策路整備や森での自然体験により自然に関心を持たせる「森育」を実現します。
- ・園庭に開かれた保育所は、広がりある空間のなかに明るく温かい印象を与えます。

周辺施設と協働する防災拠点



- ・周辺の各施設と一体的な防災拠点を形成します。
- ・高台にある保育所は、「防災に備えたまち」のシンボルであり、保護者や周辺住民に安心感を与えます。

安心・安全な施設



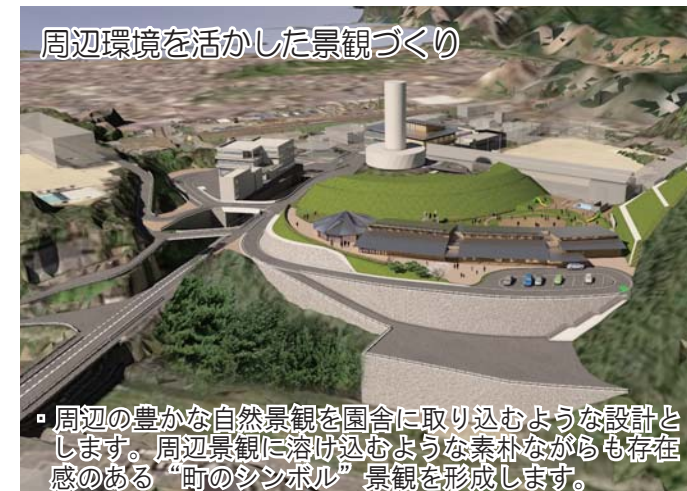
- ・正面玄関は、雨の日でも濡れずに送迎できます。
- ・保育所前には、送迎用駐車場、車寄せが設置され、玄関まで安全かつスムーズな動線配置とします。

まちなかの玄関口となる国道からの景観



- ・中土佐町に入り、国道からの景観として一番最初に目に入る本施設は、「まちなかの玄関口」を印象づける景観となっており、周辺の自然景観と一体を成しています。

周辺環境を活かした景観づくり



- ・周辺の豊かな自然景観を園舎に取り込むような設計とします。周辺景観に溶け込むような素朴ながらも存在感のある「町のシンボル」景観を形成します。